

2021年度事業報告(案)

(2021年4月1日～2022年3月31日)

1. 事業活動報告

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

- ・ 地域から寄せられる寄付品を有効に活用し、資源の地域内循環に努めました。
寄付件数 3,629件 販売衣類 16,113枚 雑貨 31,400点
総売上 14,411,980 円 (フェアトレード品を除く)
- ・ 寄付品を再生するリメイク活動も、リメイクボランティアと共に進めました。

2. 主にアジア地域の人々の生活の向上と自立に寄与する事業

- ・ 支援プログラムを理事会で討議し支援を行いました。また、地域にその情報を発信し、寄付文化を拓げました。
- ・ 東日本大震災の復興を支援しました。
- ・ NPO、NGOなどの支援活動に協力し、平和へのメッセージを発信しました。
支援 9プロジェクト 支援金総額 789,645円

2. 事業活動内容

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

1) WEショップ3店舗と「スペースWEWE」の運営

- ・ コロナ禍は移転直後の「こぶち店」に、認知度や売り上げの低迷等多大な影響を及ぼしました。理事会は改善へ向けて創意工夫を試みましたが状況は改善せず、さらに運営が厳しくなったことからWE21ジャパン相模原（以下WE21相模原）全体への影響を懸念し、8月理事会で熟慮、討議し10月末をもって「こぶち店」を閉店しました。移転が急がれ移転先のリサーチが弱かったこと、移転後の運営についての心構えが不足していたことも一因と総括しました。
- ・ 新型コロナはオミクロン株に変異し猛威を振るっていますが、感染防止に努めながら時短営業を継続しました。ショップスタッフ、ボランティアの人たちと共に、WE21相模原全ショップの業務及び運営に努めました。
- ・ 資源を有効に活かすために、寄付品やストック品を3ショップ及びリメイク事業で活用しました。
- ・ 「相模原ショップスタッフ調整会議」を2回開催しショップ運営の内容を討議し、提供品の受け入れ統一化を図るとともに、チラシを作成しました。

【スペースWEWE】

多目的スペース

- ・感染防止に努め、ワークショップ「アフガニスタンに絵本を届ける」を2ショップで開催しました。
- ・WE 21 相模原の活動を伝えるため、窓ガラスを利用して支援報告を行いました。
- ・リメイク事業推進のため、多様なリメイク作品の展示販売をしました。

【若松店】

売り上げ目標	600万円
実績	7,823,298円
客数	9,302人
延べボランティア数	1,344人

- ・今年度は、10月に「大規模レイアウト」変更を行いました。最大の効果は、店内が明るくなり且つ店内の様子が外から見渡せるようになったことで、新規来店客が飛躍的に多くなり、売り上げにつながったことです。
- ・寄付文化を少しずつ根付かせるために、お客様、ボランティアへ支援について話をし続けたことで寄付者・募金者が増えました。
- ・恒例企画を小規模に4月「春夏アクセサリー・バッグ市」9月「秋冬アクセサリー・バッグ市」を開催しました。又頻繁に寄付品を創意工夫して展示し、ブログにあげて来店客に楽しんでいただきながら売り上げを伸ばしました。
- ・WE 21 相模原の活動報告及び支援活動を外壁掲示板、ガラス面、店内壁面等を使い、タイムリーに見やすくわかりやすい広報に努めました。
- ・3月に「フェアトレード週間」としてメインテーブルに生産地の様子やレシピを展示し支援先の方々への関心を深めると同時に購入者を増やし支援に繋げました。
- ・ボランティアへ、ショップ運営が円滑に行われるように頻繁にメールを使って連絡し、少人数且つ短時間でボランティアミーティング（リメイクボランティアを含む）を開催しました。（7月・12月）少人数での開催により細やかな意見を聞くことができ、ショップ企画にも反映することができました。
- ・来店者、寄付者、支援者を増やしチャリティショップの活動をさらに広げるため、主にボランティアが中心となり2月からチラシ撒きを積極的に始めました。元スタッフや元ボランティアにも声掛けをして活動が広がりました。
- ・来店客には積極的に声掛けを続け、今年度は、新規ボランティアが客の中から1名入りました。
- ・元こぶち店スタッフが12月より入り複数体制となったことで、新しい視点でショップ運営をすることができるようになりました。
- ・寄付品を再利用し物を大切にするリメイク文化を広げるための活動としてリメイク品を展示・販売し、売り上げに貢献しました。

- ・地域の方々が必要とされているリメイク作品の情報を共有するための、リメイクボランティアミーティングは開催できませんでした。今後リメイク情報を全員で共有化するミーティングが必要となります。
- ・WE 2 1相模原のリメイクの在り方を共に考えるボランティアを増やし、参加を拓げるための人材が足りませんでした。
- ・リメイク全体を見ることのできる担当者不在が一番の課題と今年もなりました。今後は、リメイク活動全体の討議が必要とされています。

【南台店】

売り上げ目標	5 2 0 万円
実績	5, 0 8 9, 6 2 5 円
客数	5, 4 8 9 人
延べボランティア数	1, 2 3 2 人

- ・今年度は、恒例企画の「アクセサリー市」、「バッグ市」は感染拡大防止対策を十分しながら2年ぶりに開催する事が出来ました。開催を心待ちにして頂いたお客様に楽しんでいただく事ができ、また、売上にも繋がりました。
ただ、「夏の半額セール」は密を避ける為、7月に使用可能の雑貨1点半額券、8月には衣類1点半額券を配布しましたが、1点半額の売上効果は残念ながらあまりありませんでした。
また、1月の「初売り・南台店開店20周年記念半額セール」を開催するにあたり、セール用の品物の準備、チラシの作成や、ボランティアの手配等、事前準備を十分にしました。久しぶりの半額セールは効果があり、目標を達成する事が出来ました。
また、ボランティア数名の手作りの記念品を150個用意しましたが、皆様に好評でした。
- ・コロナ禍での時間を利用して「ブログ研修」等の内部研修に参加し、業務の推進をはかりましたが、継続が難しく、次年度はブログの年間計画を立てたいと思います。
- ・マスク生活が長引く中、「手作り布マスク」と昨年1月から「マスク用チャーム」の作成販売をしていますが、現在も好評で良く売れ、マスク204点 70,400円、マスク用チャーム 243点 79,950円となり、リメイク売上にも繋がりました。
また、9月開催の「手作り市」の為に作成したエプロンやマスクチェーンも好評で、ボランティアが活動に積極的に参加するようになりました。
- ・ボランティア獲得の為、お客様への声掛けをしましたが、今年度は1名のみでした。
予定していたボランティアミーティングはコロナの影響で、実施する事が出来ませんでしたが、ボランティア全員へグループラインで情報発信をしています。
- ・昨年、高齢者支援センターから「ベンチマップ」のベンチ設置協力店の要請を受け、ベンチを設置していますが、現在も一時休憩のベンチとして活用されています。
また、毎年ベンチマップが発行され、WEショップの広報に役立っています。
- ・相模原市商店会連合会が企画した商店街年末イベント「1,000万円キャッシュバック

キャンペーン」に参加しました。

商店街の活性化の為に協力しましたが、売上効果にはあまり繋がりませんでした。

【こぶち店】

売上げ目標 4, 100, 000円

実績 2, 383, 117円 (フェアトレード売上218, 420円含む)

客数 2, 665人 延べボランティア数 372人

- ・ふちのべから移転して1年、「WEショップこぶち店」の知名度を上げることに努めました。
ボランティアと協力してローラー作戦でショップ周辺にチラシまきをしました。
通行人にアピールするため、A看板を大きなものに替え、外壁にポスターを掲示しました。
ショップでの寄付品や活動をブログで紹介しました。
- ・市やセールが行えない中、リメイク担当ボランティアの提案により、4月と9月に「リメイク作品販売会」を開催することができ、「もうひとつのもったいないを活かす」をアピールして、売りに上げに繋げることができました。
- ・地域の人々にリサイクルショップではなく「チャリティショップWEショップ」を理解してもらうため「アフガニスタンに絵本を届ける」ワークショップを実施し、現地の生活や現状を学びました。
- ・しかしながら、採算分岐点を確保することができず閉店となりました。
新規開店ではなく移転ということでの心構えの甘さや、スタッフのモチベーションが上がらなかつた事、環境問題を踏まえた販売方法や、アピールが不足していた事、提供された品物を大切に活かすために売り方の工夫をしたり、お客様のニーズを把握できず、思い込みや決めつけで店頭に出さないなど、真摯な向き合い方ができなかつたことが、反省としてあります。

この経験をWE 21 ジャパン相模原のスタッフとして、活かしていきたいと思います。

2) リユース・リサイクル事業

- ・WE 21 ジャパン (以下WE 21)、WE 21 ジャパン・グループと連携して、この事業を推進しました。
- ・販売できなかつた衣類、陶器、ガラスの一部はWE 21 と連携するリサイクル企業に届けリサイクルに努めました。
衣類のファイバー 835 袋 約 5,845 kg

2.主にアジア地域の人々の生活と自立に寄与する事業

2021年度は新型コロナウイルス感染症のため、どれぐらいの支援が実行できるか不透明でした。

そのため、各キャンペーンではWEショップを通じて、寄付・募金の呼びかけに力を入れて行いました。

5月に行った「ガザ空爆への支援」はすべて寄付・募金で支援を行うことができました。20年余の活動を相模原の方が理解し、応援してくださっていると確信しました。その結果支援総額も2020年度を上まわることが出来ました。(詳細 支援一覧参照)支援のプログラムの内容検討は、コロナ禍のため残念ながら支援チームでは1回のみになり、必要に応じ理事会での討議で決定しました。

1)国内への支援

2プログラム 223,320円

- ・「3. 11をわすれない」キャンペーンを行いました。

東日本大震災で起こった 福島原発事故当時子どもだった人々が成人を迎えています。

自分の健康について、親に聞けない、言えない等の不安をもって、たらちねクリニックを訪れています。

《自分の健康を科学的に見守り証明する活動》(特非)いわき放射能市民測定室たらちねが運営する「たらちねクリニック」が今年度から行う「たらちねこどもドック手帳」の作成・配布を支援しました。

- ・日本国際ボランティアセンターがカンボジア事業終了にあたり行われた「DVD作成」に協力しました。

2)海外支援活動をしている団体への助成金の支援

7プログラム 566,325円

2021年度はこれまで長年支援を行ってきた支援先に多くの困難が occurred。

5月、パレスチナ「ガザ」への空爆、8月、アフガニスタンのタリバンによる政変です。

- ・「ガザ空爆」はTVでも多く取り上げられ、ショップを通して多くの方の気持ちを支援に繋げることができました。
- ・アフガニスタンについては、政変後大変困難な状況になっています。

日本からの送金が思うように行えないとともに、支援を実行する現地NGOも、これまでの活動をどのように 行うか、女性たちの活動が出来ない、銀行から資金を引き出すことが難しい等不透明な状況となっています。

そのような中で、平和村ユナイテッドの「アフガニスタンの戦闘で親を亡くした子どもたちに平和を」事業が活動を開始し、WE21相模原も支援を行いました。

また、長年支援を行ってきた「識字教育支援」はJVCの事業終了に伴い、WE21グループでつくっている「アフガニスタン連絡会」に参加して活動を行うこととしました。しかし、政変後この事業活動は大変厳しい状況となっています。参加している8地域NPOなら

びにサポートを担ってくれている J V C とともに、事業の継続のために方策を探っていきたいと思います。

3) フェアトレード品の販売による支援

- ・ショップ毎に、仕入れ数や年間売り上げ計画を立てて取り組みました。
- ・ショップ内外で、フェアトレードの理念を伝え販売に繋げました。

<2021 度 WE21 ジャパン相模原民際支援活動一覧>

支援国・地域	支援プログラム名	実施団体	金額	備考
アフガニスタン	絵本を届ける ※	公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会	25,000 円 うち募金 5,000 円	絵本づくりワークショップ開催 6月15日 大野中公民館 6月24日 大沼公民館
パレスチナ ガザ	緊急支援	NPO 法人 日本国際ボランティアセンター	55,325 円 うち 寄付募金 55,325 円	5月10日～20日 11日間の空爆被害
東ティモール	緊急募金	NPO 法人 APLA	56,000 円 うち募金 26,000 円	ハリケーンによる豪雨被害緊急募金
パレスチナ ガザ	子どもたちの栄養失調を予防するための地域活動	NPO 法人 日本国際ボランティアセンター	145,000 円 うち 寄付募金 33,247 円	10月15日16日 貧困撲滅デーキャンペーン
アフガニスタン	「戦闘で親を亡くした子どもたちに平和を！」	一般社団法人 平和村ユニテッド	155,000 円 うち 寄付募金 62,778 円	12月16日～18日 クリスマスキャンペーン
アフガニスタン	識字教育支援	アフガニスタン 現地NGO ※	30,000 円 うち 寄付募金 25,000 円	「アフガニスタン連絡会」に参加 ※ Your Voice Organization (YVO)) 8地域 NPO 合計 510,000 円

イラン シリア 日本	イラン 小児がん医療 シリア・イラン 難民 支援 福島の子どもたちを放 射能から守る	J I M-N E T	100,000 円 うち 寄付募金 100,000 円	チョコ募金の協力
日本	「たらちねこどもドッ ク手帳」の作成・配布 を支援	(特非)いわき 放射能市民測 定室たらちね	213,320 円 うち募金 71,501 円	3月9日～11日 3.11をわすれないキャンペーン
日本	カンボジア JVCの40年にわたる支 援DVD作成協力	NPO法人 日本国際ボラ ンティアセン ター	10,000 円	
相模原市	コロナウィルス感染症 対策「不織布マスク」 寄付	WE21 ジャパン 相模原	—	不織布マスク 303 枚 木パト
合 計			789,645 円 うち 寄付募金 378,851 円	

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業

一堂に集まって開催される報告会等の開催は難しくなりましたが、JVCなど事業実施団体ZOOMなどで行うオンラインイベントでの開催が多くなりました。参加したメンバーが理事会で報告する等情報を共有するよう努めました。

コロナ禍で多くの人に参加できる便利な方法ですが、情報を共有することの難しさを感じました。

1) WE 講座の開催

年度末に、パレスチナから帰国したJVC山村順子さんを迎えて、WE講座を開催しました。

密をさけるため支援チームメンバーのみでしたが、対面での講座はオンラインでは得られない情報を得ることができ大変有意義でした。

来年度のキャンペーン等で地域の方々に伝える努力をしていきます。

2) 「ワークショップ」の開催

2021年度もアフガニスタンを身近に感じてもらいながら支援につながる、シャンティ国際ボランティア会の「絵本を届ける運動」に参加しました。

若松店・こぶち店で参加を呼びかけ、感染防止に努めて5名に限定し公民館で「アフガニスタン ダリ語の絵本づくり」を行いました。(2021年度WE21ジャパン相模原民際

支援活動一覧参照)

参加したボランティアの方が、個人で申し込みお孫さんと絵本を作成したと話していました。この取組みが広がり、個々人が自分で出来る支援の第一歩になればと考えます。

なお、作成した絵本が、アフガニスタンに無事届けられるか心配でしたが、「準備が整い次第、航空機で現地に届ける予定」との報告が3月、シャンティ国際ボランティア会からありました。

4. この法人事業の広報普及を図る活動

・2021年度新型コロナウイルス感染症感染防止のため、こぶち店の閉店、時短営業を行い収益減が予想されたため情報紙WEWE発行は2回に留まりました。

<2021年度情報誌 WEWE 発行内容>

	内 容	発行枚数
78号 秋号	パレスチナ ガザ「貧困撲滅デーキャンペーン」告知 SDGs さがみはらキャッシュバックキャンペーン 参加	6,500枚
79号 春号	「3.11をわすれないキャンペーン」告知 支援報告 アフガニスタン「戦闘で親を亡くした子どもたちに平和を」 ダウン回収開始のお知らせ	5,500枚

5. その他定款第3条の目的達成に必要な事業

1) 法人としての確実な運営

- ・感染防止を含めた緊急事態に対応するため、理事全員の緊急連絡先を確認しました。
- ・感染拡大防止のため、オンラインによる会議や報告会が多くなりましたが、可能な限り参加し、情報を共有し運営に活かしました。
- ・「さがみはらSDGsパートナー」として「SDGsアワード2021」に応募しました。受賞にはなりませんでしたが、WE21相模原の活動をアピールしました。

2) WE21ジャパンとの連携

- ・WE21との双方の関係性を明確にして、共に発展していけるよう「WE21ジャパンの目的を達成するための合意」に基づき連携しました。

物流費 932,607 円 商標使用料 310,000円

- ・WE21主催の各種会議、学習会等に参加し情報を共有、意見交換しました。
- ・WE21からのインターン生(大学2年生)を受け入れWE21相模原の活動や支援について伝えました。

- ・今後の環境活動の一つとして、WE 2 1の「グリーンダウンプロジェクト」（羽毛の回収に参加しました。すでに羽毛布団1枚、ダウンジャケット9枚の提供がありました。地域にWE 2 1相模原の環境活動を広げていきます。

3) WE 2 1 ジャパン・グループとの連携

- 「WE 2 1 ジャパン・グループオンライン会議」に参加し情報交換、意見交換等連携しました。
- ・感染防止のため、「県央グループ会議」は開催されませんでした。

4) 政策提言活動

- ・「コミュニティオプティマム福祉マネージメントユニット相模原」（以下ユニット）の参加団体として、子育て中も、年をとっても、障がいがあっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、毎年市民政策提案を行っています。今年は「安心して子どもを産み育てられる相模原を実現するために」「ひとり親世帯の日常生活支援の充実」についてを相模原市長に提出しました。

5) 他団体、行政との連携

- ・各会議は感染拡大防止のため、オンラインでの開催や、中止もありました。
- ・支援活動団体の、講座等に参加し情報等を地域に発信しました。
- ・相模原市資源循環推進課の依頼により趣旨に賛同し「フードドライブ」チラシをショップで配布しました。
- ・相模原市の「サンキューキャンペーン」やサウザンロード相模台商店街「キャッシュバックキャンペーン」に参加し「WEショップ」をアピールしました。
- ・相模原サポートセンターの「オンライン利用者懇談会」に参加し、WE 2 1相模原の活動を伝えました。
- ・座間市就労支援「はたらっく・ざま」の事業者懇談会に参加してWE 2 1相模原の活動を伝えました。
- ・連携する「青い鳥」の布ぞうりをWEショップで販売し、リユース・リサイクルの大切さを伝えました。また「青い鳥」からは寄付品を提供していただき、WE 2 1相模原は布ぞうり用の布を提供して相互連携を深めています。
- ・ショップで販売されなかった白生地を、生活介護事業所「一から百まで堂」に届け藍染用の布として活用されました。
- ・「木パト」（路上生活者と生活困窮者支援）へ食器・衣類・布団等必要な生活用品を支援しました。
- ・相模原市SDGs推進課から依頼の「中学生SDGs学習」を受け入れ、WE 2 1相模原の活動から、SDGsへの考えを伝えました。